

SUPERBIKE RACE in OKAYAMA

ALL JAPAN ROAD RACE CHAMPIONSHIP

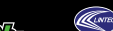
2023 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第7戦

- 岡山県
- 岡山国際サーキット
- 1周 = 3.747km
- クラス / JSB1000
- マシン / BMW M1000RR
- タイヤ / BRIDGESTONE

JSB1000 #9 関口 太郎

RACE	9月23日(土) 天候: 晴れのち曇り コース: ドライ
	予選 12番手 (タイム: 1分32秒604)
	決勝 10位

観客動員数: 5,700人 (2日間合計)





早くも今回の岡山ラウンドを含め残り2戦となった全日本ロードレース選手権シリーズ。JSB1000クラスも今回は1レースのみの開催となり、土曜日は公式予選のみが行われるスケジュールとなっていた。

レースウィークに入っても、いい流れで進んでいき、初日は電気系セットを行いつつ、足回りのセットも詰めていく。ただ、CN燃料に合わせたエンジンブレーキの調整には苦戦していた。金曜日は、さらに自己ベストを更新する1分33秒020で12番手となり、公式予選では1分32秒台が射程に入っていた。



今年の岡山ラウンドは、天気恵まれレースが行われた日曜日も青空が広がった。9月下旬にしては気温は上がったが、絶好の観戦日和となっていた。

公式予選では、最後にタイムを出しにいったときのフィーリングが今ひとつだったため、チームスタッフと話し合いレースに向けてアジャスト。決勝朝のウォームアップ走行で確認し、レースに挑んだ。



24周で争われた決勝。スタートはまずまず決まり1コーナーに入っていくと目の前で岩田選手がハイサイドを起こし転倒しそうになってしまう。これを避けるためにアクセルを戻したところ中富選手に抜かれてしまう。2周目のダブルヘアピン1個目の進入で中富選手をかわすが、前のライダーとの差はかなりついてしまっていた。アペレージには自信があった関口は、そこから1分33秒台に入れると、4周目には1分32秒台に入れる。その後も1分33秒台で周回を重ね、前を走る秋吉選手との差を縮めていく。最終ラップも1分33秒台を記録したが秋吉選手に1秒446差の10位でチェッカーフラッグを受けた。



いい流れで戦えた岡山ラウンド

前週に行われた事前公開テストは、鈴鹿8耐から続くハードスケジュールのため疲労がたまっていた関口は、身体を回復させてテストを1日のみに集中。2台を使って足回りの方向性を決め、しっかり走り込むことができ、タイムも自己ベストを更新するなど、レースに向けていい内容のテストとなっていた。



迎えた公式予選。セッション序盤の攻撃では、まず1分33秒017をマークすると1分32秒702までタイムを縮めて一度ピットイン。再びコースに戻るとタイミングを計りアタックに入ると1分32秒604を記録し自己ベストを大幅に更新。グリッドは12番手となり、4列目を確保していた。

レース序盤に前に離されてしまい終始単独走行となりましたが、決勝中に1分32秒台にも入りましたし、最後まで1分33秒台で走ることができたので、内容はよかったと思います。事前テストも1日に集中したことで、しっかり走ることができましたし、いい流れが作れました。この調子で最終戦鈴鹿も、いい流れを作って今シーズン最高のレースをして締めくくりたいと思っています。今回も多くのご支援ありがとうございました。

関口 太郎

